

説明のしかたについて考えよう

# 天気を予想する

武田 康男

この文章は、三つの根拠を問いと答えを繰り返し返しながら、結論を最後に述べている尾括型の文章である。この中で注目したいのは、資料の引用している部分の文章と、接続語を活用して事例を出しているという部分である。また、各段落の要点は、段落の一文目に書かれ、その後の文章は、要点を具体的に説明する文章が書かれている。

結論段落では、事実を肯定しながらも、「しかし」という接続語を使って、筆者の考えを強調している。

段落行	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
事実・意見 問い・答え 接続語	事 事 事 ③②①	問 意 見 ⑤④	答 ① 答 ②	問 答 ②①	答 の 理 由 ① 事 事 ③②①	答 の 理 由 ②	問 答 ①	答 ①	答 ②	事 判 断 意 断 定 意 強 調 意 提 案 ④③②①
着目した文章等	話題提示 「上の表は、……。」(↓資料の説明) 「これを見ると、……が分かります。」(↓資料を見て分かること) ※資料(表)を引用した事実の文 「どうして……でしょうか。」 「それは、……二つの理由に……よいでしょう。」 「一つは、科学技術の進歩です。」	「もっ一つの理由は、国際的な協力の実現です。」	「では、さらに……でしょうか。」 「それはかなりむずかしいと……考えです。」 「……一つに、突発的な天気の変化が挙げられます。」 「下のグラフは、……表したものです。」 「……分かります。」 「また、局地的な天気の変化も……ものです。」	「それでは、……手だてはないのでしょうか。」 「一つの手だては、実際に自分で空を見たり、風を感じたりすることです。」 「天気に関することわざも有効な場合もあります。」	「科学技術の……しています。」 「それによって、わたしたちの……便利になっています。」 「しかし、……一人一人なのです。」 「そのことをわすれず、……大切にしたいものです。」					
具体と抽象の関係等	結論の根拠① (具体)			結論の根拠② (具体)			結論の根拠③ (具体)			結論(抽象)

# 表やグラフを引用して書くこと

この文章は、「天気を予想する」と同じく、資料を引用し、それを根拠として結論を書いている双括型の文章である。

この文章においても、資料の引用の仕方、結論の事実と意見の書き方が「天気を予想する」と同じであり、両教材を比べて読むことで、説得力のある結論の書き方や、資料の引用するときの文章の書き方を児童は捉えることができる。

段落	1	2	3
行	③②①	⑦⑥⑤④③②①	③②①
事実・意見 問い・答え 接続語	意(推測) 意(判断) 意(断定)	事 事 事 事 意(判断) 意(推測)	事 意(判断) 意(断定)
着目した文章等	①の意見に対する理由。 道かな根拠(事例)。	「下のグラフは、…示したものです。」 「上の折れ線は、…表しています。」 「これを見ると、…が分かります。」 「…が分かります。」 「…ということは、…だと思います。」 「…(になる)でしょう。」	「…は、…といえるでしょう。」 「…といえます。」
具体と抽象の関係等	結論①(抽象)	結論の根拠	結論②(抽象) 要旨